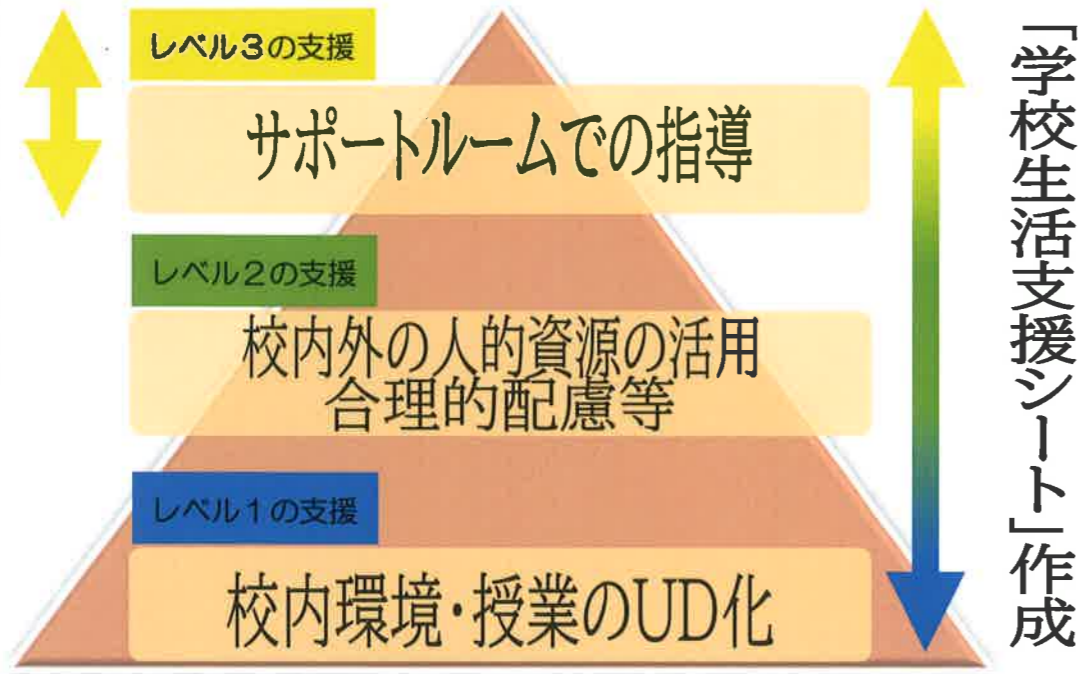


# 一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育活動と支援体制の構築

～サポートルームとの連携による通常の学級における指導の充実～

「個別指導計画」作成



町田市教育委員会 教育長 小池 慎一郎

町田市立南成瀬中学校は、2023・2024年度の2年間、町田市特別支援教育推進モデル校として、研究主題を『「一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育活動と支援体制の構築」～サポートルームとの連携による通常の学級における指導の充実～』と設定し、熱心に研究を進めてこられました。この度、その成果を発表されますことを心よりお慶び申し上げます。

本研究では、本校が作成した「特別支援校内委員会マニュアル」を活用し、教職員が連携・協働するための土台となる校内支援体制の構築に取り組まれました。また、教育のユニバーサルデザインに基づく授業実践に加え、サポートルーム担当教員が通常の学級の授業づくりに参加し、具体的な教育的ニーズの視点も加え、全ての生徒が「分かりやすい授業」の実現に向けた研究を積み重ねてこられました。

本校の研究成果を、校種に関わらず参考にしていただき、それぞれの専門性を生かしたチームとして、校内支援体制を一層充実させ、生徒の成長を支えていただくことを期待しております。

結びに、これまで熱意をもって本研究を進めてこられました、杉浦元一校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、本校の研究を温かく支えてくださいました保護者や地域の皆様に厚くお礼を申し上げ、挨拶いたします。

町田市立南成瀬中学校 校長 杉浦 元一

本校は2023・2024年度の町田市教育委員会特別支援教育推進モデル校の指定を受け、「一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育活動と支援体制の構築」を研究主題として、全教職員が一丸となって研究を進めてまいりました。

本校ではこれまでサポートルーム（特別支援教室）の拠点校として、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害のある生徒に対する支援の充実を図ってまいりました。対象生徒の「得意なこと」、「支援・配慮があればできること」などを見出し、達成感や自己肯定感をもたせることを通し、通常の学級で有意義な学校生活が送れるようにしています。

サポートルーム担当教員は在籍学級の担任教員と協働して指導にあたっています。この協働作業は、通常の学級の教員が全ての生徒に対して支援・配慮を行う方法を学ぶ重要な機会となっています。どの学級にも支援の必要な生徒が在籍している中、通常の学級においてサポートルームでの指導内容・方法を通常の学級に取り入れていくことにより、全ての生徒が学習に集中できる環境で、分かりやすい授業を受けることが可能になると考え、実践研究を積み重ねてきました。

研究の推進にあたり、星槎大学大学院の阿部利彦先生には2年間にわたりご指導をいただきましたことを深く御礼申し上げますとともに、町田市教育委員会をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました多くの方に感謝申し上げます。

2023・2024年度 町田市教育委員会指定 町田市特別支援教育推進モデル校

## 町田市立南成瀬中学校

〒194-0045 東京都町田市南成瀬7-7-1  
電話 042-729-3441 FAX 042-721-4478

## 研究の構想

### 本校の教育目標（目指す生徒の姿）

- ・共生（自他の生命を尊重し、多様な価値観を認められる生徒）
- ・自立（自ら考え判断し、たくましく行動できる生徒）
- ・貢献（社会性を身に付け、周囲の人と協働できる生徒）

### 生徒の実態

- ・体育祭や合唱コンクールなどの行事に意欲的に取り組んでいる。
- ・学校評価での「授業が充実していて、前向きに取り組むことができているか」に対する肯定的な回答が数年にわたって59%程度で推移している。

### 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」 文部科学省(令和4年)

小中学校における「学習面または行動面で著しい困難を示す」とされる児童生徒の割合は、推定8.8%となり、35人学級であれば3人程度在籍している可能性がある。

### サポートルームの課題

- ・通常の学級とサポートルームの教員の連携が不十分である。
- ・サポートルームで学んだことを通常の学級で般化させることが難しい。

### 研究主題

「一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育活動と支援体制の構築」

### 副主題

サポートルームとの連携による通常の学級における指導の充実

### 研究仮説

通常の学級の指導に特別支援教育の視点を取り入れることで、どの生徒も「できた、わかった」を実感し、より意欲的に取り組むことができるだろう。

### 校内支援体制の構築

校内環境のUD化 教室環境のUD化  
特別支援校内委員会の充実

### 授業改善

特別支援教育の視点を踏まえた手だて  
サポートルームとの連携

# ●校内支援体制の構築●

★それぞれの取り組みを全校生徒が評価★

4段階評価 ④ぜひやってほしい(3点) ③やってほしい(2点)  
 ②やらなくてもよい(1点) ①やらないほうがよい(0点)  
 ⇒平均点を0点~5点に変換し、★(満点5)で表しました。  
 併せて、生徒の意見も紹介します。

## 【校内環境のUD化】

### ●場の構造化 (校内表示の改善)

#### 階段の表示

階段の進行方向を  
⇒で明示した。

★★★★☆ 休み時間の教室移動で階段(特に中央階段)が混雑して歩くことが大変だったけど、右側通行となって楽に歩けるようになった。(1年生)  
 平均 3.0



### ●場の構造化 (校内表示の改善)

#### 教室配置の掲示

現在地や教室の場所の表示を  
見やすく改善した。

★★★★☆ 南成瀬中は校内が複雑なので、1年生のときは目的の教室に行くのにいつも迷っていた。表示が分かりやすいと、保護者の人も助かると思う。(2年生)  
 平均 3.3



## 【教室環境のUD化】

### ●時間の構造化

#### 1時間の流れ

ホワイトボードで  
授業の流れを示す。  
「今日のながれ」

★★★★☆ 見通しをもって授業に取り組めるため安心して授業を受けられる。時間配分も隣に書いてくれると、より分かりやすいと思う。(3年生)  
 平均 3.8

#### タイマー

課題に取り組んだり  
考えたりする時間を  
可視化する。

★★★★☆ 時間を示してもらえると、「ここまで何分でやらなきゃ」という目標ができて、やる気ができるので、ぜひやってほしい。(1年生)  
 平均 3.8



### ●内容の構造化 (黒板掲示の工夫)

#### カード

「目標」「ポイント」  
「まとめ」などの統一  
したカードを掲示する。

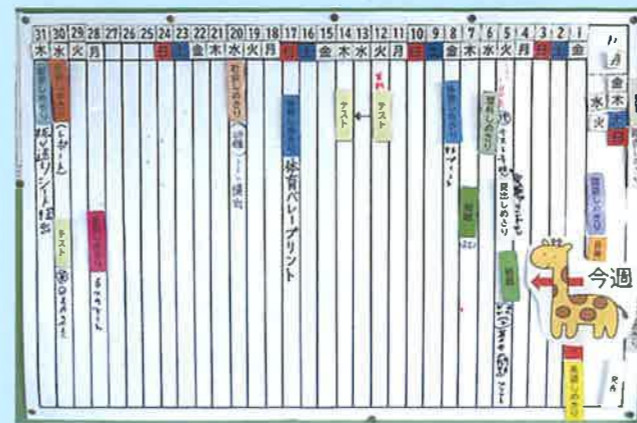
★★★★☆ 全部チョークだと板書が多いときポイントとかが埋もれることがある。ノートをまとめる時に便利なので、カードがあったほうがいい。(2年生)  
 平均 3.9

### ●視覚化

#### 「シメキリン」

提出物の期限を担当者が記入して締め切りが  
一目で分かるようにする。

★★★★☆ 「シメキリン」があることにより目標や目処をもって課題に取り組むことができる。  
 ぜひ、継続してほしい。(3年生)  
 平均 4.0



### ●刺激量の調整

#### 「掲示物・棚」

黒板周りの掲示物は最小限にして、  
棚にはカーテンで目隠しをする。

★★★★☆ 授業中に棚の物やいろいろなものに気が散って黒板に集中できないことがあった。棚にカーテンがあった方がよい。(2年生)  
 平均 2.8



## 【特別

### ●授業のUD化

#### 「目標」の提示

授業のねらい(を)  
を示す。

★★★★☆ その授業で何を学ぶことができたか、あとで分  
 目標があると便利。授業が終わったときに何が  
 ると理想なのか分かりやすいと思うから続けて  
 (3年生)  
 平均 4.1

#### 目標

ピンスポンアの西村  
 思いを読み取ることで

ノートを書くことが遅いので、プリントに目標を入れてくれ  
 授業のスピードについていけると思う。(3年生)

2章1節\_連立方程式とその解き方(2) 連立方程式の解き方

目標 加減法を使って連立方程式を解くことができる

① 連立方程式  $3x+2y=21$  ..... (1)  $x$ を消去する

(プリントを)

### ●展開の工夫

#### 「協同学習」

個人・ペア・グループ  
 話し合いや学び合いの  
 を設定する。

★★★★☆ 自分以外の意見や発想、色々な視点から見た  
 したら様々な考えが身に付くと思う。分から  
 も周りの人になら聞きやすいと思う。(1年  
 平均 4.2



### ●授業のUD化

#### 「振り返り(まとめ)」

振り返り(ま  
 の時間を入

★★★★☆ 授業で学んだことを振り返る時間を設定して  
 と、その授業で何を学んだのか確認できる。  
 平均 3.6 (2年生)

### ●展開の工夫

#### 「ほめる」

できている時に  
 すかさず、ほめ

★★★★☆ 自分の意見をほめたり、励ましたりして  
 もらうとやる気になる。(1年生)  
 平均 3.9

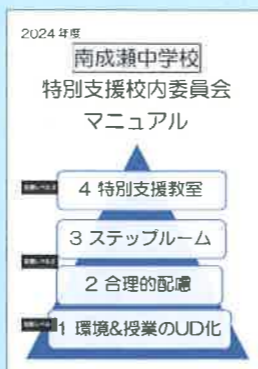
## 【特別支援校内委員会の充実】

校内委員会は定例で  
 毎週実施している。  
 SSWや巡回相談心理  
 士も参加し、情報共  
 有だけではなく、具  
 体的な手だてを考え、  
 常に有効な支援を檢  
 討している。



### 校内委員会 マニュアル

支援レベルに応じた  
 支援例をまとめた。  
 その他、特別支援教育の  
 視点を踏まえた環境・授  
 業チェックシートや  
 タイプ別支援法も収納。  
 教職員で共通理解。



# ● 授業改善 ●

## 【支援教育の視点を踏まえた手だて】

## 【サポートルームとの連携】

### ● 視覚化

#### 「プレゼンテーションツール」

プレゼンテーションソフトや音声・動画・標本などの教材を使う。

★★★★★ 動画教材などを見ることでより理解がしやすいし、学校ではできない実験などを動画で示してくれると分かりやすくイメージができる。(3年生)  
平均 **4.3**



### ● 個に応じた支援

#### 「板書を撮影」

タブレットで板書を撮影することを認める。

★★★★★ ノートを見ても分からなかったことが撮影した黒板の画像を見ることで情景が思い浮かんで、授業内容を思い出しやすくなる。勉強の効率がよくなると思う!! (3年生)  
平均 **3.2**



### サポートルーム担当教員が参加した指導案検討分科会

通常の学級の授業づくりにサポートルーム担当教員が参加。「なんなるVer.タイプ別支援法」を活用したり、通常の学級の授業における支援の具体的な手だてを話し合い特別支援教育の視点を踏まえた指導案を検討している。



### 連携型個別指導計画を作成

サポートルーム利用生徒の個別指導計画を担当とサポートルーム担当教員が作成。在籍学級における支援を記載し、評価も行う。

### サポートルームの公開授業を実施

通常の学級の教員が参観し、サポートルームの実践的な手だてを見て学ぶ。



### なんなるVer.タイプ別支援法

学習面 読み、書き、計算、推論など特定の学習に著しい困難を示す生徒  
行動面 不注意、衝動性、多動性などがあり、自己管理が困難な生徒  
社会面 他者理解、状況理解が苦手でコミュニケーションが困難な生徒

	手だて	学習面	行動面	社会面
授業のUD化	本時の目標を提示する。	○	○	○
	授業の流れを提示する。	○	○	○
	振り返りの時間を入れる。	○	○	○
	復習から授業に入る。	○	○	○
	発問を工夫し、何のためにこの授業を行うか焦点化する。	○	○	○
視覚化	授業規律のルールは提示しておく。		○	○
	タイマーで時間を見える化する。			○
	授業内容を視覚化する。(プレゼンテーションソフト、写真、実物)	○	○	○
指示の工夫	短く簡潔に話す。	○	○	○
	二つ以上の指示を同時に行わない。(一時一事の原則)	○	○	○
	注目させてから指示をする。		○	○
	具体的に指示をする。			○
展開の工夫	否定形を使わない。			○
	授業の型をパターン化する。			○
	集中力が持続するよう、10~15分の活動に分けて構成する。		○	
	聞く、話す、見る、書く、動くなど、様々な感覚を使った指導を工夫する。	○	○	○
	個別、ペア、グループなど様々な学習形態を取り入れる。	○	○	○
個に応じた支援	全員が参加できる活動を用意する。	○	○	○
	できている時にすかさずほめる。	○	○	○
	UDチョークを使う。	○		
	板書を写すことが苦手な生徒には、ポイントだけ写すように指示をする。	○		
	タブレットで板書を撮影することを認める。	○		
	課題が早く終わった生徒のためのチャレンジ問題を用意する。	○	○	○
	ヒントカード、補助プリントを用意する。	○	○	○
	課題を自己選択させる。	○	○	○

### ● 個に応じた支援

#### 「ヒントカード」

問題が難しく困っている生徒には「ヒントカード」を、課題が早く終わって時間に余裕がある生徒には「チャレンジ問題」を用意しておく。

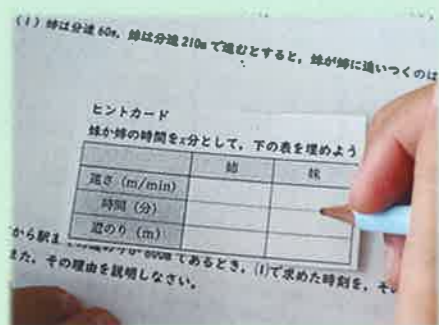
★★★★★ 平均 **3.4**

人によって解くスピードが違うから授業についていけない人が増えると思う。(1年生)

#### 「チャレンジ問題」

★★★★★ 平均 **3.7**

早く課題が終わってしまうことが多いので、少し難しめの問題を渡してもらえると嬉しい。(1年生)



### ● 個に応じた支援

#### 自由進度学習

自分で課題を選択・設定し、学習計画を立て自分のスピードで学習を進める。

★★★★★ 平均 **3.3**

自分の興味あることを選び、自分に合ったスピードで進められるので、見通しをもって計画を立てる力がつくと思う。ただ、自分に合ったレベルを選ぶのが難しそう。(1年生)



# 研究の成果

## 1 校内支援体制の構築

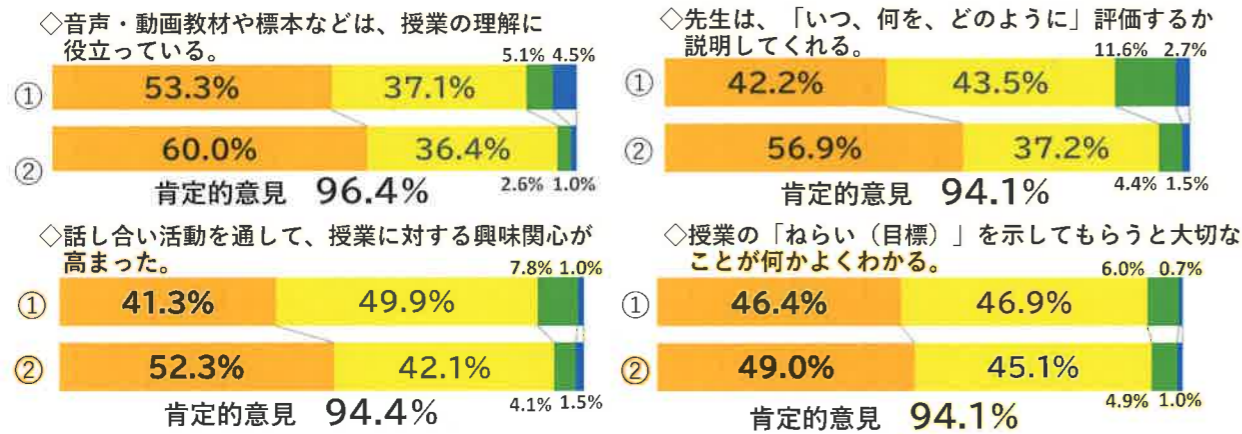
- 「特別支援校内委員会マニュアル」を作成して、全教職員が活用することで、レベル1・2・3の具体的な手だてを全校で共通理解し、実践することができた。
- 校内委員会では、スクールソーシャルワーカー（SSW）や巡回相談心理士も加わり、情報共有だけでなく、具体的な手だてを考え、その実施結果をもとにさらに有効な支援を検討することができた。
- 階段の進行方向や校内の案内を表示をするなどの校内・教室環境のUD化により、学校生活が過ごしやすくなったという声が、多くの生徒から聞かれた。（肯定的意見73.1%）

## 2 授業改善

- 「音声・動画教材や標本等の利用」「評価の方法を知らせる」「話し合い活動」「ねらい（目標）の提示」などの手だてが、授業改善に特に効果的であることが生徒アンケートから分かった。この4項目において生徒の肯定的回答は94%以上であり「よく当てはまる」の割合も上昇している。

＜「授業に関するアンケート」 2023年5月①・2024年10月②の比較＞

■よく当てはまる ■当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない



※「授業に関するアンケート」  
全校生徒を対象に、2023年5月、2024年3・6・10月の合計4回実施した。  
本研究で取り組んでいる「特別支援教育の視点を踏まえた手だて」、「教室のUD化」の効果についての質問する内容となっている。

- 学校評価「授業が充実していて、前向きに取り組むことができているか」に対する肯定的な回答は、

2021年11月	2022年11月	2023年5月	2023年11月	2024年5月	2024年11月
59.2%	→ 58.2%	→ 59.9%	→ 59.0%	→ 61.2%	→ 64.5%

と上昇しており、少しずつではあるが2年間の取り組みの成果が表れている。

- 指導案検討分科会において、サポートルーム担当教員が、学級全体の中で行う個別支援の方法の具体的な助言を行い、それを反映させた「特別支援教育の視点を踏まえた指導案」を作成したことで、サポートルームと通常の学級の教員のそれぞれが学びを深めることができた。
- サポートルームで行っている指導の手だてをまとめた「なんなるVer.タイプ別支援法」により、通常の学級の教員は、生徒理解や授業における具体的な指導方法を増やすことができた。
- 通常の学級の教員があまり実践していなかった「全体の中での個の見立て」、「課題分析」、「スモールステップでの目標立て」、「具体的な手だて」の設定といった、特別支援教育の手法を意識できるようになったことは今回の研究における大きな成果であった。

# 研究の課題

今回の研究で実践した手だてを、さらに授業の中で日常的に導入していくことが課題である。特に、星（☆）の評価がやや低い取り組みについては方法などの検討が必要である。  
通常の学級におけるレベル1、2の支援の充実は、全ての学校において喫緊の課題である。本校はこの2年間、特別支援教育推進モデル校として研究に当たってきたが、研究を終えてからも引き続き取り組みを進めていく。

## おわりに

町田市立南成瀬中学校 副校長 藤田 裕一

令和4年に文部科学省が行った全国の小・中学校を対象にした『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』の結果によると、「学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒」の推定値は8.8%であり、各学級で3～4名程度在籍していることとなります。また、「その基準には達していないが、基準近くに分布している児童生徒」が一定数いることも示されています。本校でもこの2年間、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができるように、「校内支援体制の構築」、「授業改善」を推進し、研究を深めてまいりました。そして、特別な支援が必要な生徒への指導方法は、すべての生徒にとっても大切であることを生徒たちの様子を通して実感することができました。

最後になりますが、研究の推進にあたり2年間ご指導いただきました星槎大学大学院教育実践研究科教授・阿部利彦先生、講師の先生方、町田市教育委員会に心より感謝申し上げます。

## ご指導いただいた講師の先生

星槎大学大学院教育実践研究科 教授	阿部 利彦 先生
町田市教育委員会 特別支援教育・人材育成アドバイザー	丸 節子 先生
町田市教育委員会 特別支援教育専任相談員	前川 圭一郎 先生
東京都特別支援教室巡回相談心理士	田中 とう子 先生
町田市教育委員会 指導主事	浅野 徹 先生

## 2024年度 研究に携わった教職員

(◎は研究主任 ○は研究副主任 下線は研究推進委員)

校長	杉浦 元一			
副校長	藤田 裕一			
第1学年	田村 健二	中島 千尋	宮下あや香	富井 嘉子
	青木 謙二	松本 隼	山崎 彩音	
第2学年	高田 利博	浦井 翼	長友 章子	平田 正幸
	◎山崎瑠利子	谷岡 徹	可兒 由帆	平 瑠美
第3学年	笠松 喜徳	大平 拓巳	宮腰 一裕	平井 良美
	湯澤 一也	藤原真由美	愛甲 仁	神部 絵美
サポートルーム	◎平野 恵里	森 哲也	岩崎 達也	樋口 航介
	井口 茜	田村 美保	河野 琢	楠森 美緒
	田村 里美	外谷場雄介		

特別支援教室専門員	本城奈々子	
スクールカウンセラー	濱 洋子	市川美紀子
事務	山崎 利枝	衛藤 麻子
特別支援教育支援員	山田 淳子	
スクールサポートスタッフ	山田 美佐	
図書指導員	長橋美智子	
ボランティアコーディネーター	渡邊 恵美子	

## 2023年度 研究に携わった教職員

田中 靖之	橋詰 貴	眞分 千晴	皆川 康子	三上 紗季
和知 直子	宇賀 恵理	出口 直実	永津さつき	吉田まつ子
松田 啓佑				